

令和 元年 6 月 21 日現在

機関番号：32519

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2018

課題番号：17K13311

研究課題名（和文）国際会議誘致における開催地選定基準と国外参加者動機に関する研究

研究課題名（英文）Research on site selection criteria to attract international convention and important items to increase participant motivation

研究代表者

岩本 英和 (Iwamoto, Hidekazu)

城西国際大学・観光学部・助教

研究者番号：80746727

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：MICE産業は、開催地域に多大な経済波及効果を生むだけでなく、参加者に対して良い観光地イメージを持たせることができる。近年、国際会議誘致においては、観光庁や日本政府観光局をはじめとした諸々の取り組みがあるが、国内の国際会議主催者が会議を誘致する際の開催地選定基準や国外参加者が日本で開催される国際会議への参加動機について明らかにされていない。そこで、本研究では国際会議主催者に対して国際会議選定の際の重要な要素を明らかにしている。本研究の成果として、国際会議選定基準における重要な要素を明らかにするだけでなく、MICE研究に興味を持っている研究者と得られた知見を共有することが考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の目的は、国際間競争が激化している国際会議誘致に焦点をあて、国際会議主催者の開催地選定基準を明らかにしている。国際会議誘致においては、観光庁や日本政府観光局をはじめとした諸々の取り組みがあるが、国内の主催者が国際会議を主催する際の開催地選定基準については解明されていない。本研究において、国際会議主催者の開催地選定基準の重要度を明らかにすることにより、国内での国際会議誘致活動の際の参考になるため、学術的意義を有している。さらに本研究成果は、訪日外客数拡大を図るべき日本政府が推進するインバウンド観光の発展に寄与するもので社会的意義を有している。

研究成果の概要（英文）：MICE industry produces not only huge economic ripple impact, but also acknowledge as helping destination gain a better tourism image. Even though Japanese government has begun MICE promotion activities, researches on MICE industry are still limited and just get started in Japan. This study is to clarify what kinds of factors are important to attract international conventions for Japanese researchers. The findings of this study not only make clear of important factors, but also aim at sharing results with researchers who have similar interest in convention industry.

研究分野：観光学

キーワード：MICE 国際会議 コンベンションビジネス アンケート調査

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

MICE (Meeting, Incentive, Convention/Conference, Exhibition/Event) は、開催地域を中心に大きな経済波及効果を生む。観光庁は、2016年に国内で開催された MICE の経済波及効果を明らかにしており、国際会議が最も経済波及効果を生み出している。観光庁によれば、2016年の MICE 全体の総消費額は約 5,384 億円で、雇用創出効果は約 9,000 人分で税収効果は約 820 億円と推計される。国際会議参加者は滞在期間が長く、季節変動が少ないなど一般的な観光と異なる特性を持っている。

本研究の学術的背景においては、日本政府が観光庁を中心に MICE に力を入れている。しかし、国際会議に関する国内での研究成果は極めて少ない。MICE 研究では、主に国際会議がもたらす経済効果と開催地選定基準に関する研究に分けることができる。上述のように経済効果に関しては観光庁が MICE の経済波及効果を公表しているが、国内の開催地選定基準に関する研究は皆無に等しい。

本研究の学術的「問い」は、国内で研究が進んでいないコンベンション分野に着目し、国内の国際学会議主催者の開催地選定基準と国内外からの国際会議参加者の参加動機に関するギャップを解明する。国外における学術的成果は、国際会議施設の規模や周辺環境などが我が国と異なるため、適用することは難しい。本研究は、我が国で実施されている国際会議を統計手法により調査する点で学術的貢献に加え、社会的貢献も大きい。

2. 研究の目的

本研究の目的は、国外の既存研究から国際会議誘致における諸要素を洗い出し、我が国抱える国際会議誘致の課題を抽出し、国内の国際会議誘致における改善指針の策定と提言を行うことである。

国際会議などのコンベンションビジネスは、開催地域を中心に大きな経済波及効果を生むとされ、日本のインバウンド観光にとって主要な柱の一つと位置づけられている。国際会議には、政府間協議、学術集会や発表会、年次総会が含まれる。JNTO によると、国際会議は、国際機関・国際団体または国家機関・国内団体が主催し、50 人以上の参加者がいること、日本を含む 3 ヶ国以上の参加者がいること、開催期間は 1 日以上であることと定義されている。

観光庁は、「Japan MICE Year」を発表した 2010 年以降、海外に向けて国際会議誘致に力を入れている。2012 年には、有識者や MICE 関係者からなる「MICE 国際競争力強化委員会」が発足し、2013 年には、「グローバル MICE 都市/グローバル MICE 強化都市」を実施するなど、各地域の連携強化を推進している。また、観光庁は、2015 年には、「国際会議参加者の会議後の動向に係る調査事業」、「地域の特性を活かした MICE の推進に係る調査事業」、2016 年には、「MICE の経済波及効果及び市場調査事業」を実施するなど MICE 関連の調査事業も活発に行われている。

3. 研究の方法

本研究では、研究期間前半に国外で発表された国際会議主催者の開催地選定基準に関する文献調査を行った。次に国際会議主催者を対象にアンケートを作成し、アンケートの有効性を確認するために試験的検証を行った。

研究期間後半は、従来の開催地選定基準などを拡張し、国内の国際学会議主催者に対してアンケート調査を行った。重回帰分析など統計学的手法を用いて調査結果を分析した。

4. 研究成果

本研究では、主に国際会議主催者の開催地選定基準として、国際会議を支援するコンベンションビューローと国際会議主催者となる研究者に焦点をあてて研究を行った。コンベンションビューローとは、国内外の MICE 誘致活動、会場・宿泊施設・MICE 関連企業の紹介、観光パンフレット、飲食店ガイドブックの提供など、コンベンションの誘致・開催において重要な役割を担っている組織である。

Iwamoto, Matsuo, & Fukushima. (2017)では、コンベンションビューローのスタッフが会議誘致において、自身の経験がどのような影響を与えているのかを明らかにしている。IME 2016 において、コンベンションビューローのスタッフに対してアンケート調査を行った。本調査の結果では、スタッフの勤続年数が高いほど、外資系ホテルなど周辺地域における施設の充実化が国際会議誘致の成功に関わってくるということが明らかとなった。

Iwamoto, Matsuo, & Hirokawa. (2018)では、本研究の目的は、コンベンションビューローに焦点をあて、アンケート調査から国際会議誘致における彼らのノウハウを明らかにしている。本研究の目的を明らかにするためにコンベンションビューローから得たアンケート票を機械学習によって分析を行う。アンケート調査の結果では、多くの交際会議誘致に成功しているところでは、様々な食事が提供できること、大小施設を有していること、環境への配慮がなされていることが重要であることが明らかとなった。

コンベンションビューローに関する先行研究では、国際会議誘致においてコンベンションビ

ユーローの経験値が少なからず影響を与えていることが分かった。

また、国際会議主催者になりうる研究者を対象に国際会議を主催する際に重要視する項目についても調査を行った。主な研究では、岩本・原・松尾 (2017)が、大学関係者や研究者が国際会議を主催する際に重要視する選定基準を明らかにしている。また、本研究では国際会議の主催経験者と未経験者との選定基準の違いについても議論した。大学関係者や研究者を対象に開催地選定基準に関するアンケート調査を実施したところ、回答者は無料 Wi-Fi の提供や交通の利便性を重要視することが分かった。国際会議の主催経験者と未経験者の開催地選定基準の相違を調査した結果、国際会議の主催経験者は施設内外での Wi-Fi の提供の重要性を指摘する一方で、主催未経験者は重要視する項目が多岐に渡るため、主催を後押しするためにも包括的な支援を行うことが重要である。

さらに岩本・松尾 (2017)は、国際会議を誘致するための情報発信に着目し、国際会議誘致における効果的な情報発信のあり方を明らかにしている。研究の方法として、まず回答者の属性情報と広報活動における重要項目を記述統計を用いて分析を行った。アンケート調査の結果では、国際会議誘致における広報活動において質問項目の中で最も重要視されるのは、「日本国内のキーパーソンへの営業活動」であった。

2017年に開催された国際観光コンベンションシンポジウムで講師を務め、各地域のコンベンションビューロー向けに MICE がもたらす経済波及効果と文化・社会的効果について説明をし、世界の国際会議誘致に関する近年の動向について日本の MICE 研究と比較しながら解説を行った。さらに、2019年3月にインドネシアのアトマジャヤ大学において、本科研費成果にもとづく日本の MICE 研究の現状と課題について発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

Iwamoto, H., Matsuo, T., & Hirokawa, S. (2018). Extraction of know-how for attracting international conventions from a questionnaire survey of experienced person. *Journal of Global Tourism Research*, 3(2), 103-106. (査読有)

Iwamoto, H., Matsuo, T., & Fukushima, T. (2017). Effect of Convention Bureau Experience on Destination Attributes. *International Journal of Service and Knowledge Management*, 1(2), 1-12. (査読有)

〔学会発表〕(計6件)

岩本英和・松尾徳朗・廣川佐千男・杉山康志(2018). 国際会議主催経験がもたらす開催地選定基準の相違点, 国際 ICT 利用研究会全国大会, 日本大学

Iwamoto, H., Matsuo, T., & Sugiyama, Y. (2018). International Convention Destination: Researchers' Preferences and Requirements. *Proceedings of 7th International Congress on Advanced Applied Informatics*, 753-758. (査読有)

Iwamoto, H., Matsuo, T., Fukushima, T., & Komoda, N. (2017). Evaluation of Destination Characteristics and Public Relation Activities by Convention Bureaus. *Proceedings of 6th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics*, 82-87. (査読有)

岩本英和・原忠之・松尾徳朗(2017). 国際会議誘致における開催地選定基準に関する研究. 日本観光研究学会 第32回全国大会, 金沢星稜大学

岩本英和・原忠之・松尾徳朗(2017). 国際コンベンション誘致における情報発信に関する研究, 電気学会 C 部門大会, サンポートホール高松

Iwamoto, H., Matsuo, T., Fukushima, T., & Fujita, R. (2017). Analysis of convention bureaus' profile and their perception about destination characteristics, 1st Global Congress of the Special Interest Tourism & Hospitality, Ritsumeikan Asia Pacific University, Japan.

〔その他〕(計2件)

Iwamoto, H. (2019). New Trends in Event Tourism Research, Atma Jaya University, Makassar, Indonesia.

岩本英和(2017)「日本の国際会議の動向と開催地選定基準」(第6回 国際観光コンベンションシンポジウム), アクアシティ浜松

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。